

市長就任から3か月。 毎日がチャレンジ！

寒い日が続きますが、春も近づいてきました。新年よりさまざまな行事に出席していますが、野川駅伝や各種団体等の新年の集いなど、「3年ぶり」という言葉をよく耳にいたしました。引き続き感染症への対応は続きますが、これまでの日常も少しずつ戻ってきていることを実感しております。失われた3年間の地域での繋がりを再構築する課題とともに、新しい日常で得た知恵や工夫も活かして、ポストコロナ時代の行政運営や市民サービスのあり方を模索していかねばなりません。

1月22日に市民と市長の対話の場「みんなのタウンミーティング」の第1回目を開催しました。第2回目は2月17日にオンラインで開催し、今後も毎月開催します。そこで出されたすべてのご要望をそのまま実現できる訳ではありませんが、市政の状況や取り組みの現状を市民の皆様にご覧いただき、また、市民の皆様のニーズや市民目線での指摘を直接聞かせていただくことで、整理をすることができることから取り組みたいと思います。また、このような機会を継続することで、一緒に小金井市をより良いまちにする共通認識に立つことができると期待しています。ぜひ、ご都合にあわせご参加ください。

私が11月27日に市長に就任して3か月が経過しました。なかなか思うようにいかないことも多く、新たに発生した問題や事案への対処に時間を割かねばならないなどありますが、市長選挙で掲げた政策の実現と新しい小金井市へ進化させるために愚直に取り組んでいきます。

毎日職員の皆さんとさまざまな打合せをしていますが、政策形成過程ではその情報を市民の皆様にお示しできないことは残念です。当たり前といえばそうですが、私が市議会議員のときに見えていたものはまさに氷山の一角に過ぎず、細かい事務的な調整など含めて職員の皆さんが日ごろから苦心して積み上げた上でのアウトプットであると感じています。職員の皆さんはしっかり各々の職責を果たしていただいている一方で、ときには「そもそもこれは何のためにやっているのか」「市民目線に立ってどう捉えられるのか」と疑問を感じることもあります。その際は私の方から職員に対して問いかけています。

社会的にも行政への変革の期待は求めるレベルが高いですが、日常の仕事のやり方で変えられることもたくさんあります。その積み重ねがより良い仕事になり、行政として大きな変化に繋がります。「毎日がchallenge」の姿勢で今後も取り組んでまいります。

小金井市長 白井 亨

本記事は、市報 令和5年3月1日号にも掲載しています。

